

## 平成25年度プロジェクト評価結果取り纏め状況等(前半)

## 1. 今年度評価状況等

(1)今年度は、29件【中間評価10件、事後評価19件】の評価を実施予定。

このうち、18件【中間評価10件、事後評価8件】について、各分科会での評価作業、第36回及び今回の研究評価委員会での審議を経て、評価報告書を取り纏め、以下に整理した。

(2)中間評価結果は、プロジェクトの拡大、変更、縮小、中止等の今後の運営方針に反映し、事後評価結果も含めて、得られた教訓は、NEDOの研究開発マネジメントの高度化に繋げることが重要。

## 2. 中間評価の概要

## (1) 全体傾向

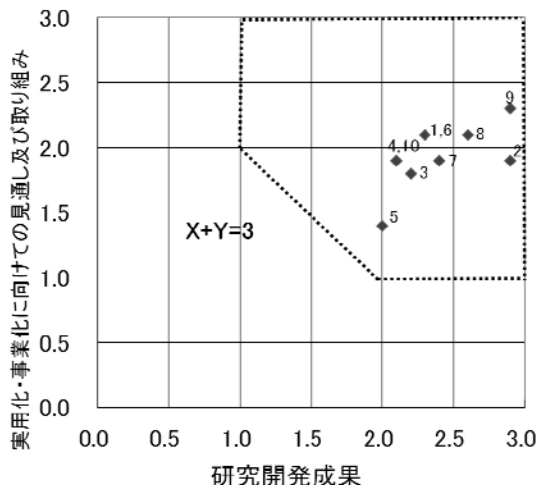
各評価項目の評点<sup>注)</sup>結果の平均から見た全体傾向は、全体的に昨年より若干高めである。また、上期に実施した10件のプロジェクトは、いずれも一定水準以上の評価結果であった。(表1、表2)

表1. 評価項目ごとの平均値推移(中間評価)

		位置づけ	マネジメント	成果	実用化
25年度	10件	2.9	2.1	2.4	1.9
24年度	10件	2.7	2.0	2.2	1.8
23年度	10件	2.7	2.2	2.3	2.1
22年度	16件	2.8	2.0	2.1	1.6
21年度	25件	2.8	2.2	2.3	1.9

注)各評価項目に対しA(優)B(良)C(可)D(不可)の4段階の評点を付け、A=3、B=2、C=1、D=0として事務局が数値換算。平均値を算出する。

表2. 中間評価結果の評価分布(参考)



別紙2に記載の評価結果について、現在、その反映作業を進めており、プロジェクトの拡大・変更・縮小・中止等、今後の運営に資する。

\* 表中の数字は別紙1の整理番号

## (2) 個別プロジェクト(別紙2参照)

### ① 高い評価を受けた事例

番号	プロジェクト名	位置づけ	マネジメント	成果	実用化
9	ノーマリオフコンピューティング技術開発	2.9	2.0	2.9	2.3

→ 世界に先駆けたプロジェクトである。世界最高水準の性能を備えた不揮発メモリを開発するなど卓越した研究成果が得られており、開発対象とする応用製品、応用システム毎に省電力化や実用化に際しての課題が明確化されていると評価された。

### ② 合格ではあるが、厳しめの評価を受けた事例

番号	プロジェクト名	位置づけ	マネジメント	成果	実用化
5	太陽熱エネルギー活用型住宅の技術開発	2.9	1.7	2.0	1.4

→ 事業の重要性は高く、各テーマともに工程通り進んでいると評価されたが、実用化に向けたターゲットや課題の明確化など、目標設定と実用化に向けた取り組みにおいて、厳しい評価となった。

## 3. 事後評価結果の概要

### (1) 全体傾向

各評価項目の評点結果の平均から見た全体傾向は、全体的に昨年より若干高めである。  
(表3)

表3. 評価項目ごとの平均値推移(事後評価)

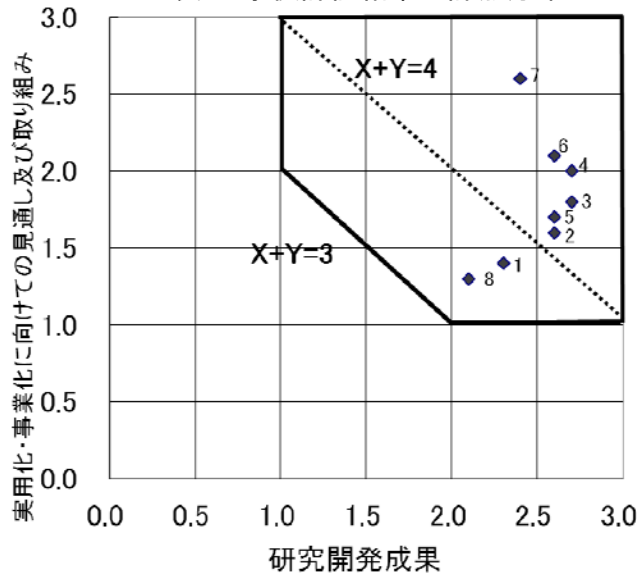
	位置づけ	マネジメント	成果	実用化
25年度(前半) 8件	2.8	2.1	2.5	1.8
24年度 22件	2.8	2.2	2.3	1.8
23年度 30件	2.7	2.2	2.4	1.8
22年度 20件	2.7	2.0	2.2	1.7
21年度 15件	2.7	2.1	2.3	1.8

### (2) 合否等の判定

上期に事後評価を実施したプロジェクト8件について、「研究開発成果」、「実用化・事業化に向けての見通し及び取り組み」に係る評点に基づき合否等を判定すると、平成25年度上期終了時点において、8件合格(合格率100%)、6件優良(優良率75%)となった<sup>注)</sup>。(表4、表5)

注) 第三期中期計画で、「合格」及び「優良」の達成率(8割以上が「合格」、6割以上が「優良」)を目標として定めている。判定方法は、4つの評価軸が1.0以上かつ「研究開発成果」「実用化・事業化に向けての見通し及び取り組み」の和が4.0以上が「優良」とし、3.0以上が「合格」とする。

表4. 事後評価結果の評点分布



\* 表中の数字は別紙1の整理番号

表5. 年度別の事後評価結果の判定結果

判定 年度	年度別		中期計画(累計)	
	合格	優良	合格(目標8割)	優良(目標6割)
第3期				
25(前半)	100%(8/8)	75%(6/8)	100%(8/8)	75%(6/8)

### (3) 個別プロジェクト(別紙2参照)

#### ①高い評価を受けた事例

番号	プロジェクト名	位置づけ	マネジメント	成果	実用化
7	革新的ガラス溶融プロセス技術開発	3.0	2.2	2.4	2.6

→ガラスの低エネルギー消費プロセスを目指し、世界的にも極めて高い水準の革新的な独自技術が開発された評価された。さらに、実用化への課題も明確に示されており、実用化に向けた計画も進行していると評価された。

#### ②合格ではあるが、厳しめの評価を受けた事例

番号	プロジェクト名	位置づけ	マネジメント	成果	実用化
8	エネルギーITS 推進事業	2.5	1.9	2.1	1.3

→自動運転・隊列走行技術について、開発された要素技術については、応用の可能性があると評価されたが、事業者のニーズ把握、社会システム等としての受容性の検討が弱いと指摘された。また、効果評価方法についても社会的に利用するための課題が多くあると指摘された。

### 4. 後半の評価予定 (別紙1参照)

現在、後半のプロジェクトについて評価分科会での評価を進めている。今年度中に更に1回研究評価委員会を開催する予定。

(3月を予定。事後評価(事後評価の前倒し実施含む)11件附議予定。)